

欧州景気概況(2023年3月)

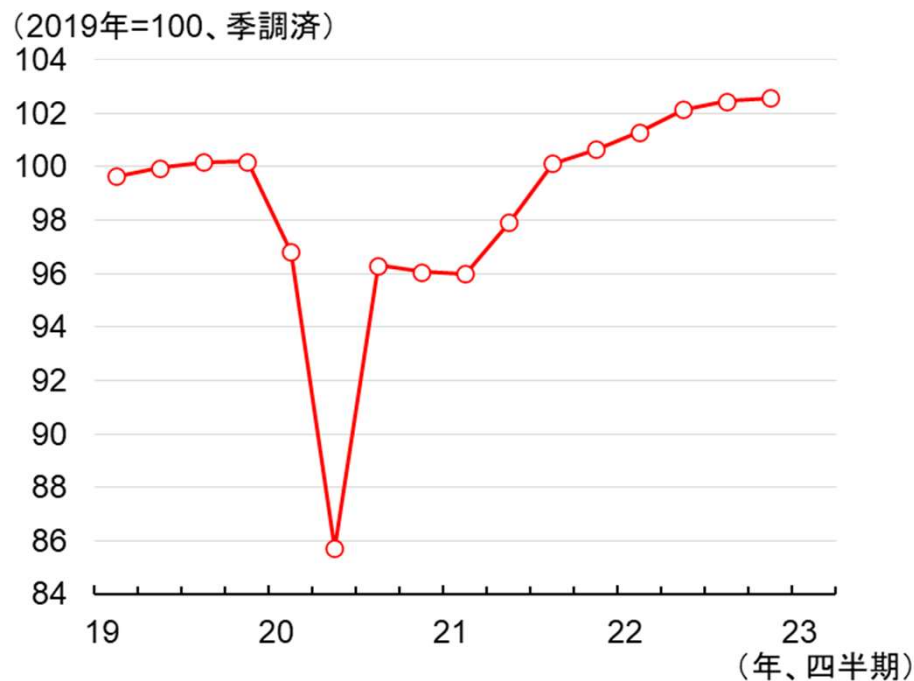
2023年3月3日

調査部 副主任研究員 土田陽介

ユーロ圏景気概況① 景気は足踏みしている

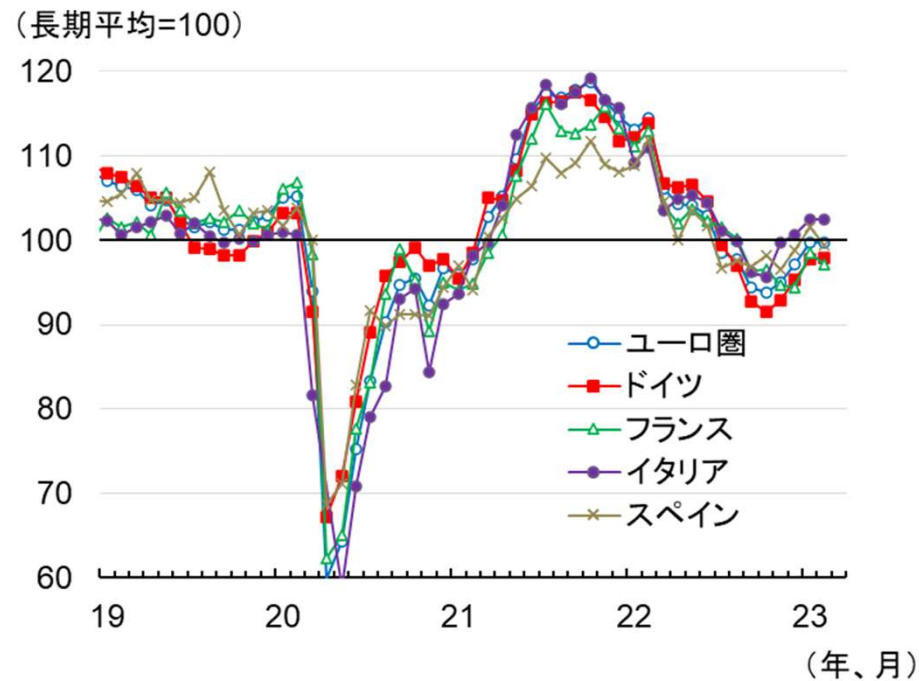
ユーロ圏の2022年10-12月期の実質GDP(改定値)は前期比+0.1%と、2四半期連続で増勢が鈍化した。アイルランドの増勢加速(前期比+2.3%から同+3.5%)の影響が大きい。一方で、景気の方角を示す景況感指数は、最新2023年2月が99.7と再び低下し、足踏みしている。

実質GDP



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数



(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は足踏み

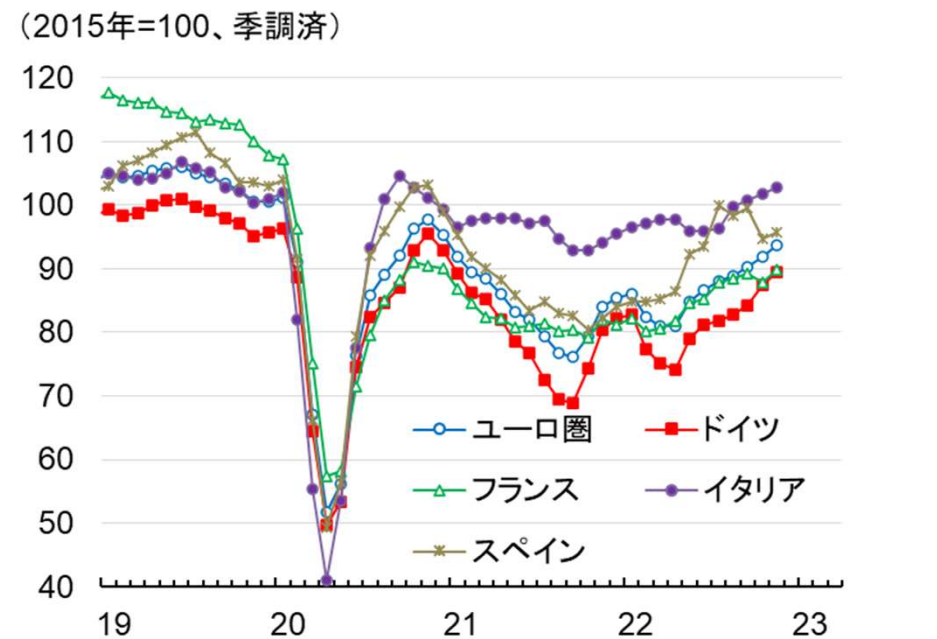
ユーロ圏の2022年12月の鉱工業生産は前月比▲1.1%と再び減少、均した動きも下向きに。中間財、資本財、消費財といずれも減少し、生産全体を下押しした。自動車生産台数は、ドイツとイタリアを中心に持ち直している。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

自動車生産台数(鉱工業生産ベース)



(注) 3ヶ月後方移動平均
(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は悪化

ユーロ圏の2022年12月の小売数量は前月比▲2.7%と下振れし、均した動きも下向きとなった。一方、2023年1月の新車販売台数は前月比▲7.1%の年率866万台と大幅減、均した動きは横ばい。ドイツで電動車の購入補助金が縮小されたことなどが影響した。

小売数量



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

新車販売台数

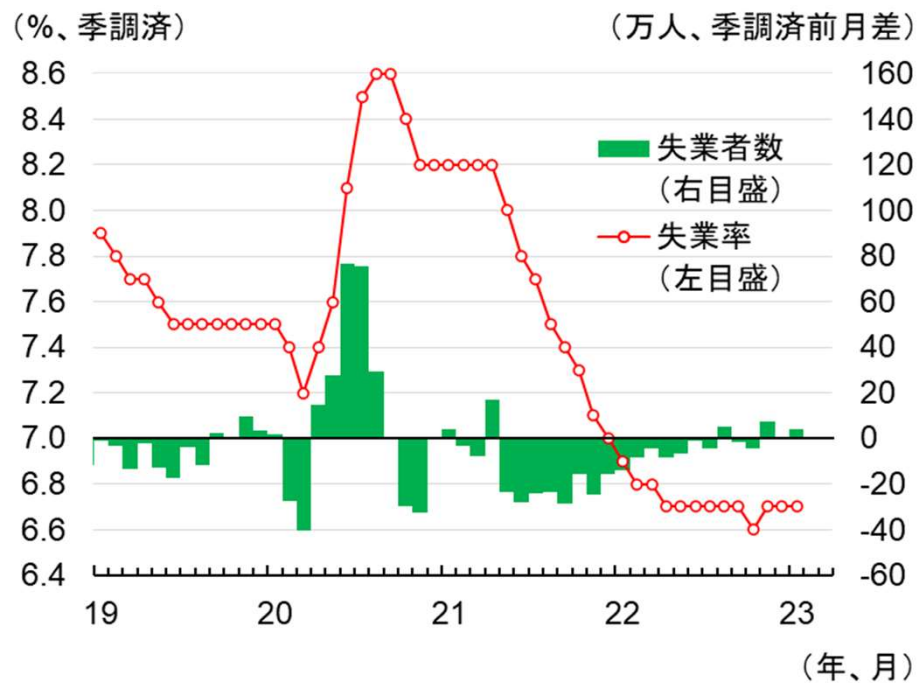


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行 (ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用は改善が足踏み

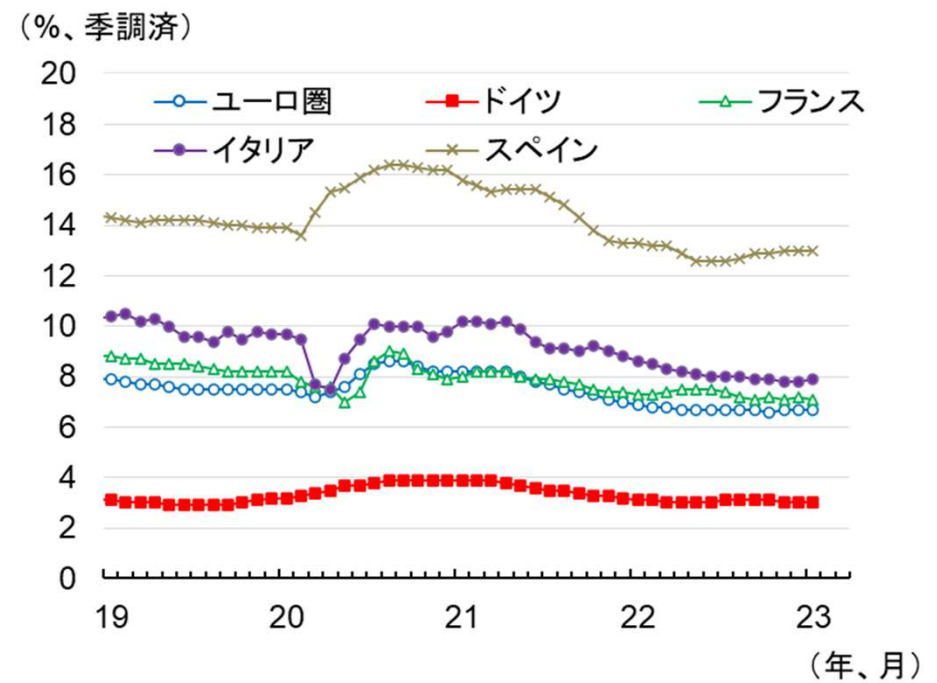
ユーロ圏の2022年12月の失業率は6.7%と3ヶ月連続で横ばい、失業者数も前月比4.3万人増となり、雇用は改善が足踏み。主要国別に失業率を見ると、各国とも横ばいとなった。

失業率と失業者数



(出所)ユーロスタット

主要国別失業率

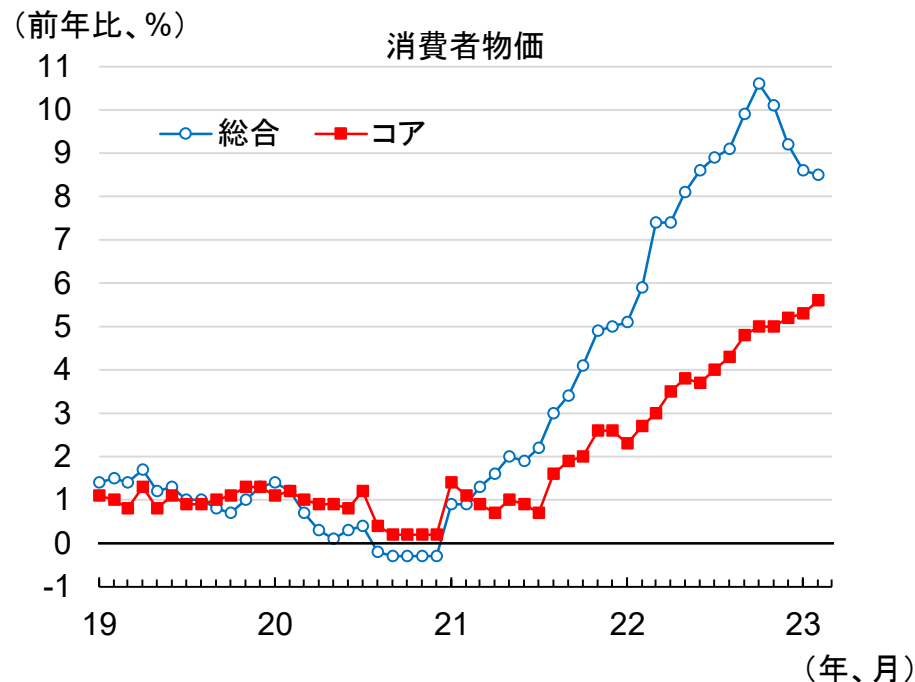


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ インフレは鈍化

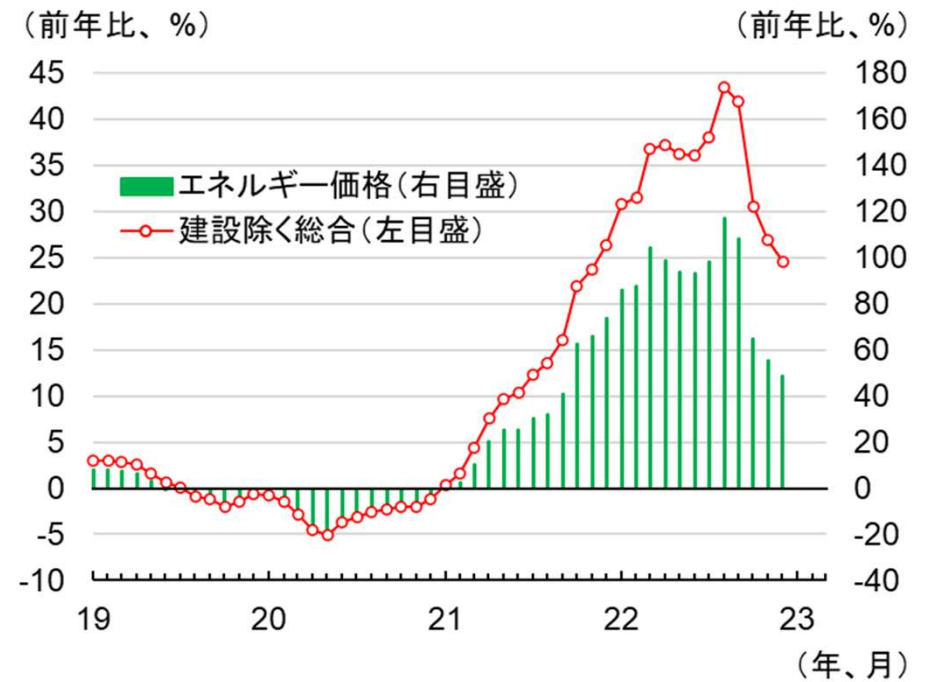
ユーロ圏の2月の消費者物価(速報値)は総合ベースで前年比+8.5%と、前月(同+8.6%)から小幅な伸びの減速にとどまった。しかし変動が激しい項目を除いたコアベースでは同+5.6%と、伸びの加速が続いた。一方、生産者物価(建設除く総合)は2022年12月時点で前年比+24.6%と、4ヶ月連続で上昇が減速した。

消費者物価



(出所)ユーロスタット

生産者物価

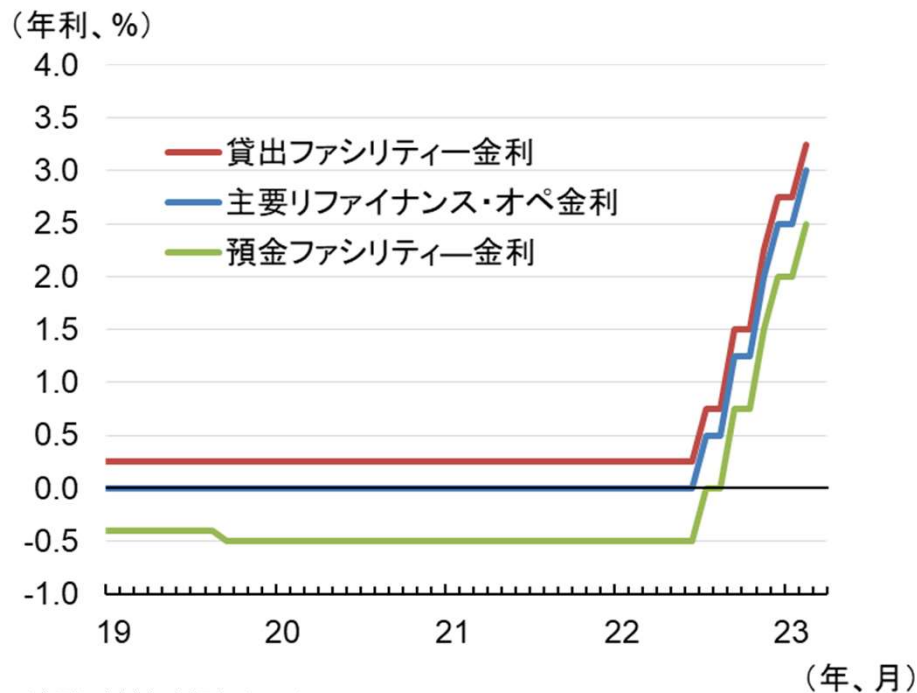


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは2月理事会で追加利上げを実施

欧州中央銀行(ECB)は2月2日に定例の政策理事会を開催、政策金利をそれぞれ0.5%引き上げた。次回3月16日の理事会でも0.5%の追加利上げを行う予定。またECBは資産購入プログラム(APP)の下で購入してきた金融資産の削減策(partial reinvestment)に関する原則を公表、3月より6月まで、月150億ユーロずつ保有資産を削減する。

ECBの政策金利



(出所) 欧州中央銀行(ECB)

2月理事会での決定内容の概要

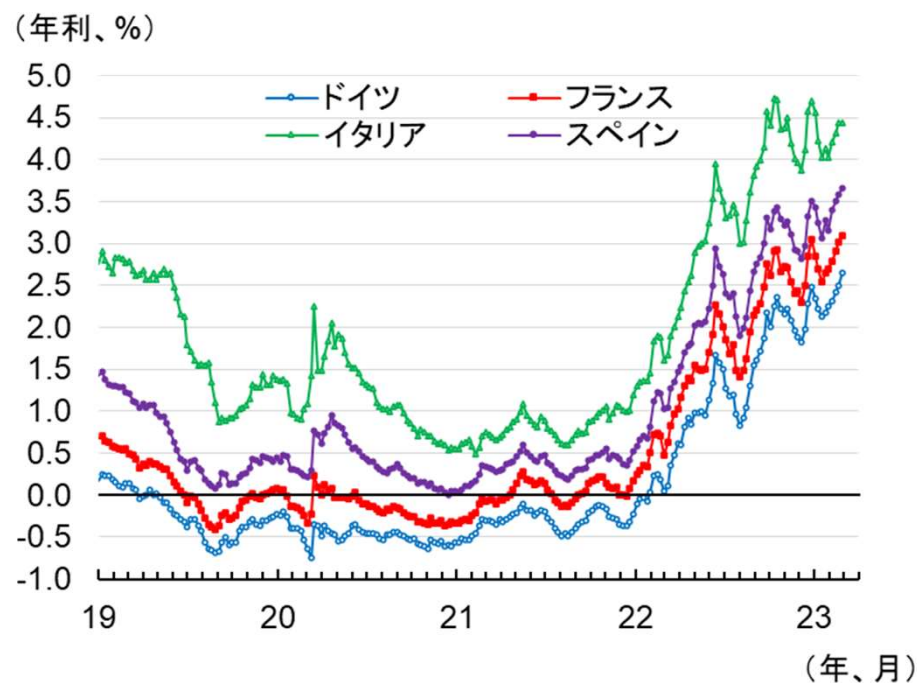
主な決定事項	内容
政策金利	<ul style="list-style-type: none"> ■各政策金利を0.5%ずつ引き上げ(3月も0.5%引き上げ) ・貸出ファシリティー金利 2.75%→3.25% ・主要リファイナンス・オペ金利 2.50%→3.00% ・預金ファシリティー金利 2.00%→2.50%
資産購入の再投資政策	<ul style="list-style-type: none"> ■資産購入プログラム(APP) ・3月から6月まで月150億ユーロのピッチで保有資産を削減 ・社債の再投資に関しては環境への配慮を重視 ■パンデミック緊急購入プログラム(PEPP) ・再投資は2024年末で終了 ・各国中銀の出資比率に応じた資産購入などを適用せず、柔軟な購入を行う
市場分断防止策(TPI)	<ul style="list-style-type: none"> ■TPIの適用条件 ・EUが定める財政ルールへの順守 ・健全なマクロ経済運営(過剰な経常赤字の是正など) ■TPIの具体的な手段 ・流通市場での国債購入、金額は無制限 ・購入対象資産は国債が中心、社債も視野、満期1~10年 ・状況が改善すれば終了 ・経済の基礎的条件に基づく金利上昇には適用せず

(出所) ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は上昇、株価は上昇

2月のユーロ圏主要国の長期金利は上昇。ECBが利上げを続ける方針であることに加えて、米国の利上げが長期化するとの思惑から、長期金利が上昇した。他方で、2月のユーロ圏の株価は上昇した。企業の好決算が続いたことや、EUと英国がブレグジット後の英領北アイルランドの物流規則を巡って合意したことなどが好感された。

長期金利



(出所) ECB

株価 (Eurostoxx50)



(出所) STOXX

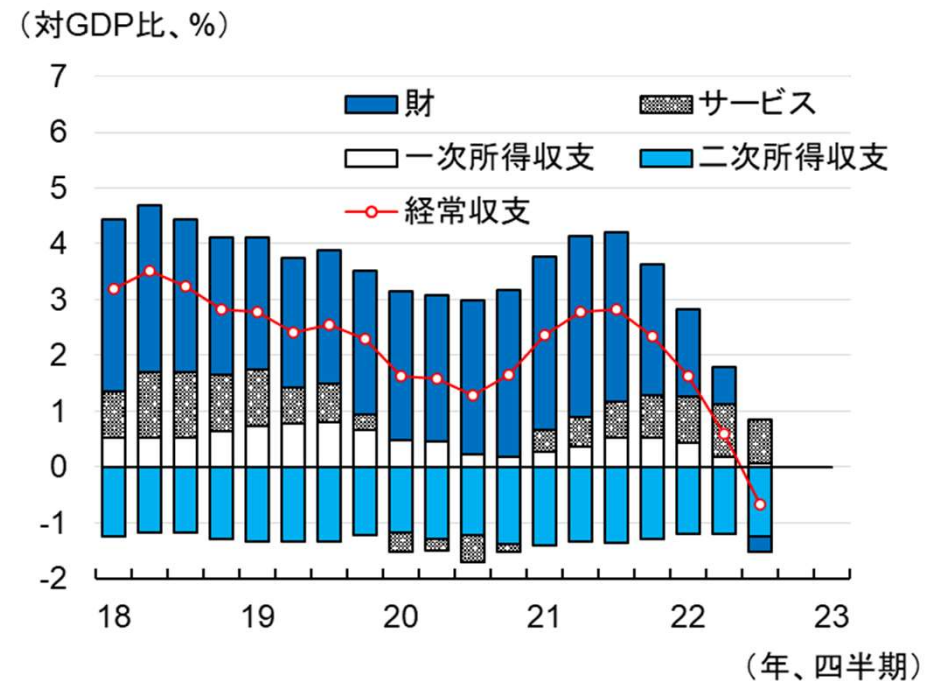
ユーロ圏景気概況⑧ ユーロは対ドルで下落、対円で上昇

2月のユーロ相場は対ドルで下落、対円で上昇。対ドルでは、米国の利上げが長期化するとの思惑から金利差が拡大し、ユーロ安が進んだ。対円では、日銀による緩和が長期化するとの思惑からユーロが上昇した。国際収支は経常収支が赤字に転落しており、実需面からのユーロ買い圧力は弱まっている。

ユーロ相場



国際収支

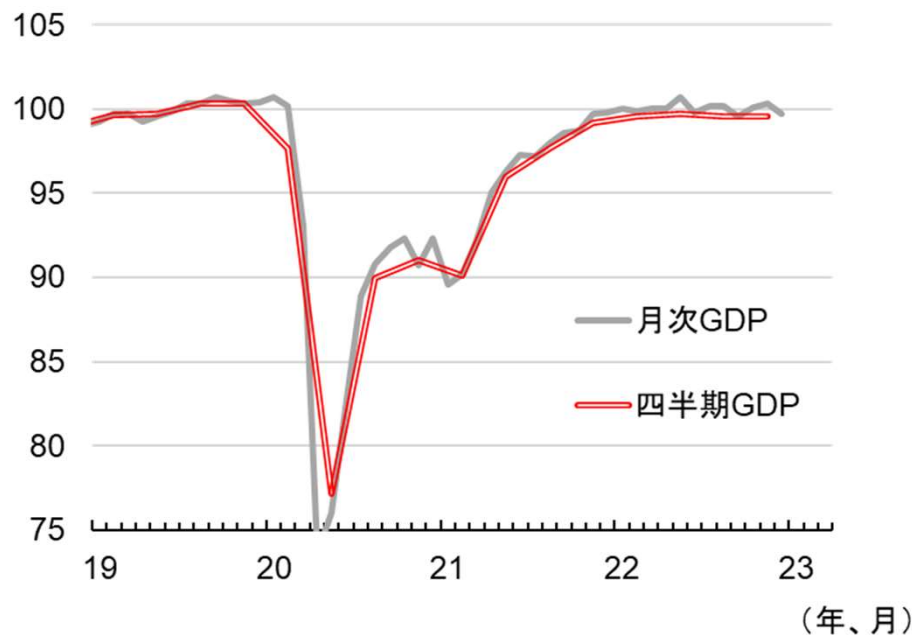


英国景気概況① 景気は足踏みしている

英国の2022年10-12月期の実質GDP(速報値)は前期比横ばいになった。主要な需要項目の動きを確認すると、輸出が減少したほか、個人消費が横ばいとなった。反面で、設備投資が堅調に増加して景気を下支えした。一方、12月の月次実質GDPは前月比▲0.6%と、9月以来の減少に転じた。

実質GDP

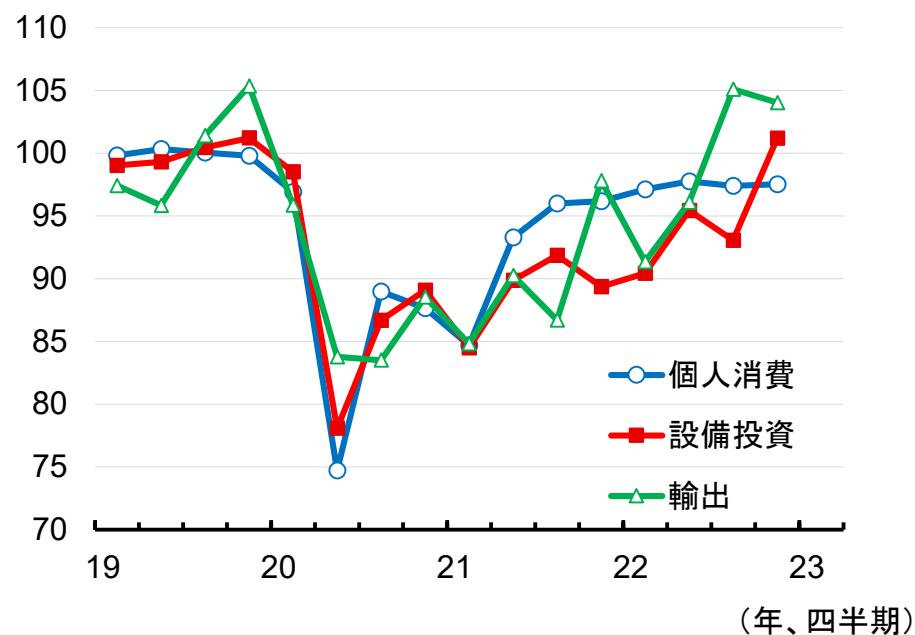
(2019年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

主要な需要項目

(2019年=100、季調済)

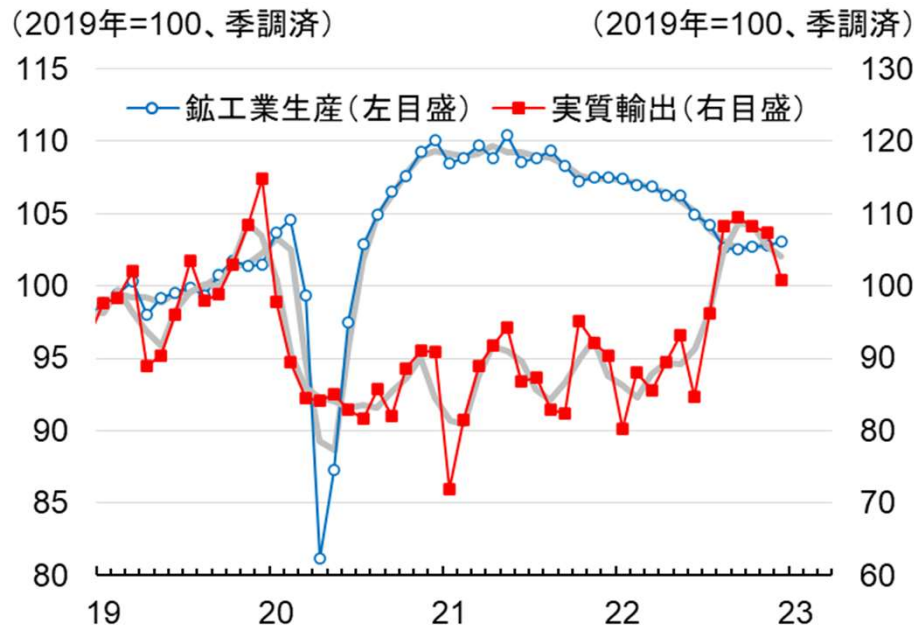


(出所)ONS

英国景気概況② 生産は増加

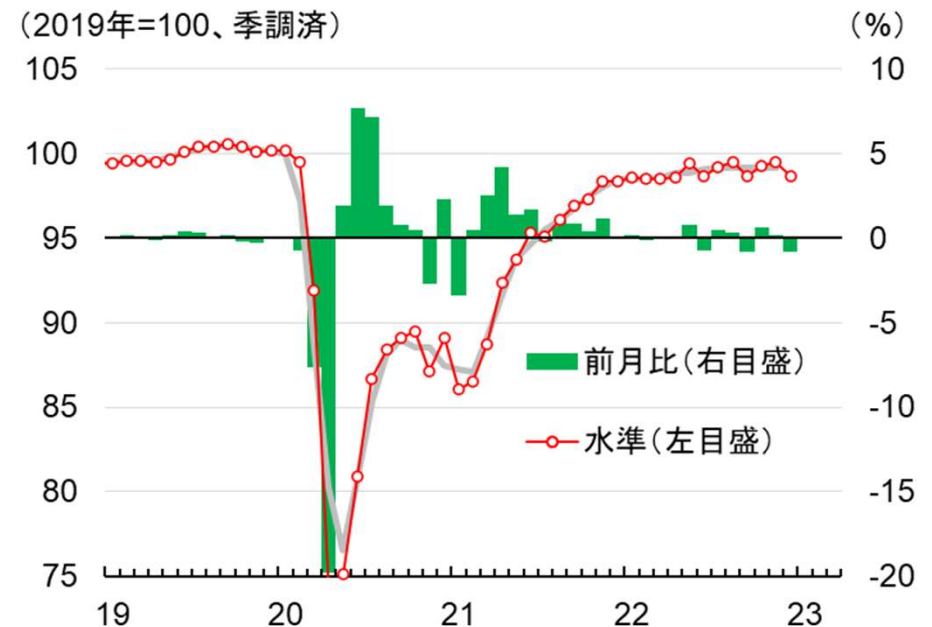
英国の2022年12月の鉱工業生産は前月比+0.3%と3ヶ月連続で増加し、均した動きも上向き。一方で、同月の実質輸出は同▲6.1%と3ヶ月連続で減少し、均した動きも下向き。また同月のサービス生産は前月比▲0.8%と9月以来の減少に転じたが、均した動きは横ばい。

生産と輸出



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

サービス業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況③ 消費は悪化

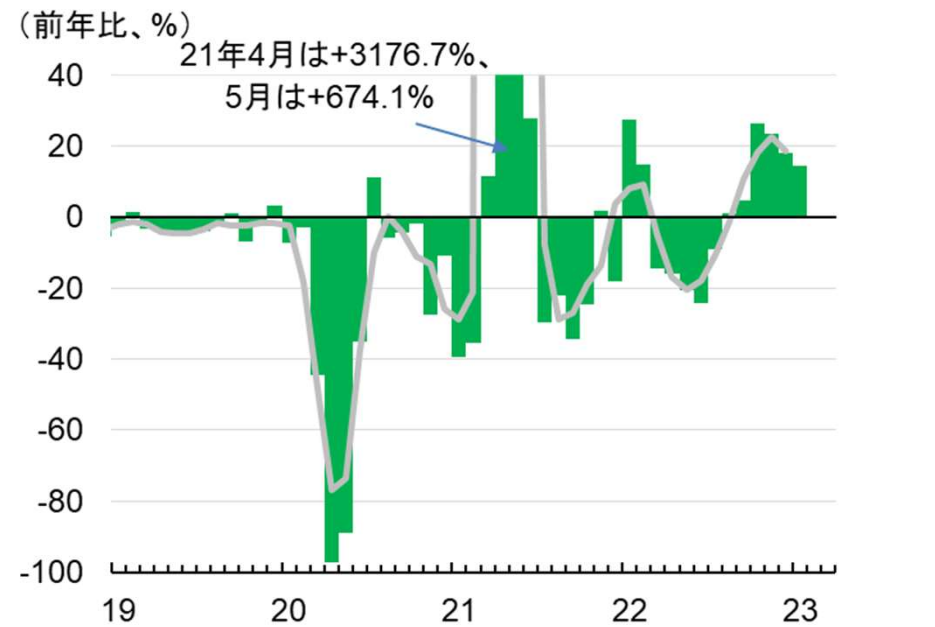
英国の2023年1月の小売数量(除く石油)は前月比+0.3%と再び増加も、均した動きは下向き。一方で、同月の新車販売台数(乗用車)は前年比+14.7%と3ヶ月連続で増勢が鈍化。均した動きはプラスが定着したが、登録台数の水準(13.2万台)は依然として低い。

小売数量(除く石油)



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

新車販売台数(乗用車)

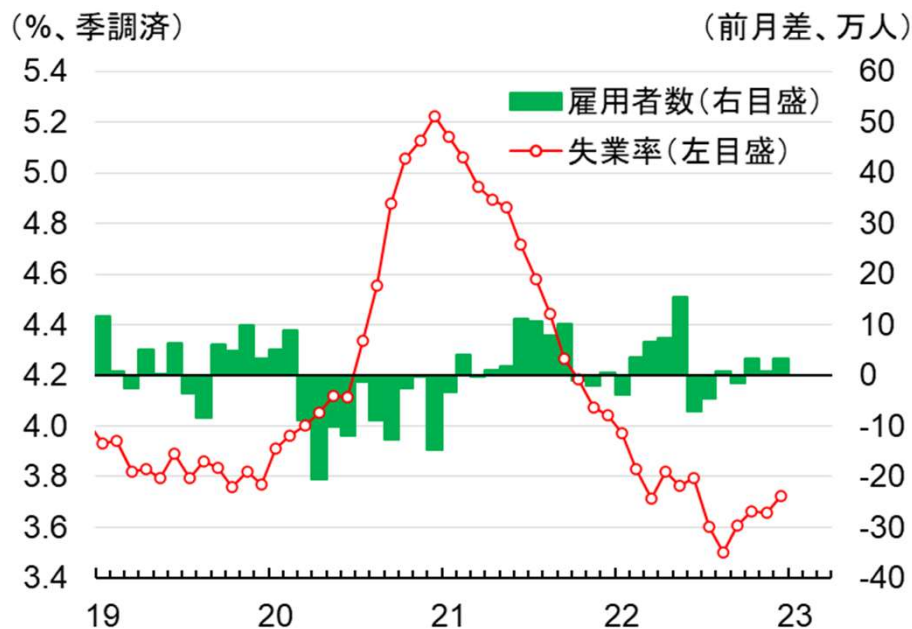


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況④ 雇用は改善が足踏み

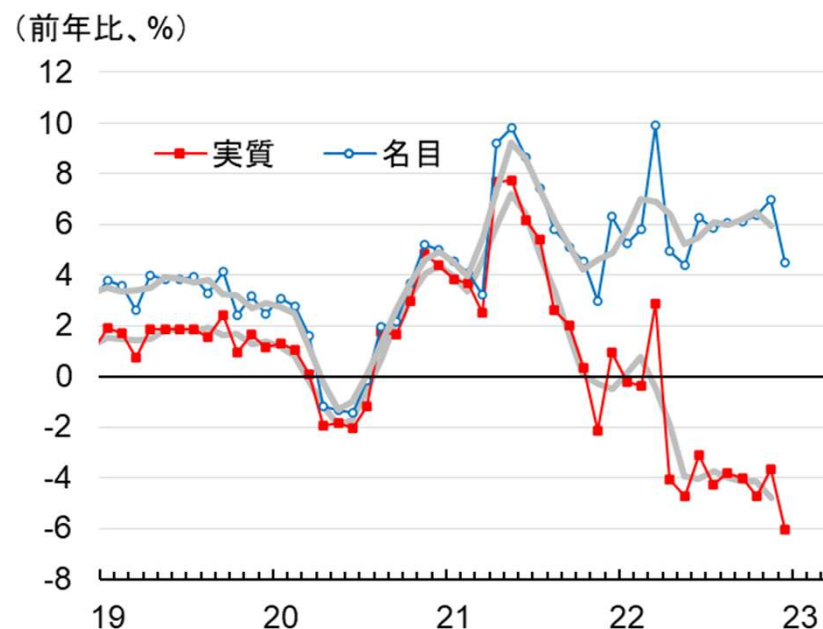
英国の2022年12月の雇用統計(3ヶ月後方移動平均)では、失業率が3.73%と前月(3.66%)から上昇し、雇用者数も前月比3.3万人増にとどまるなど、雇用は改善が足踏み。均した賃金の動きは名目ベースだと前年比6%前後のプラス幅が定着も、消費者物価で実質化した実質ベースでは減少幅が6%近くまで拡大した。

雇用統計



(注) 3ヶ月間の平均値 (年、月)
(出所) ONS

平均賃金(週給)

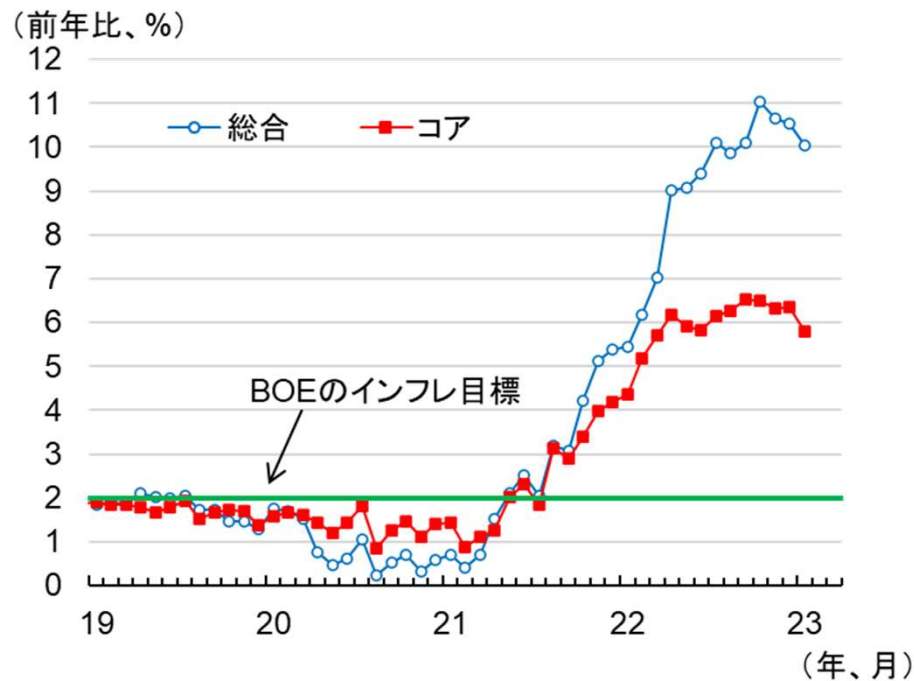


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均 (年、月)
(出所) ONS

英国景気概況⑤ インフレは鈍化

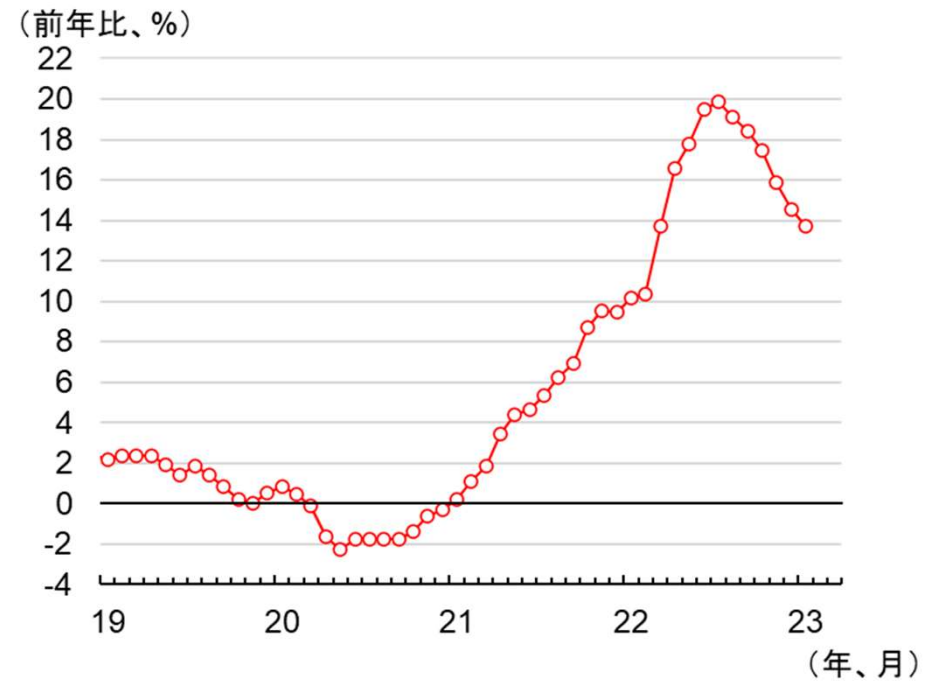
英国の1月の消費者物価は総合ベースで前年比+10.1%と3ヶ月連続で上昇率が低下し、インフレは鈍化している。変動が激しい項目を除いたコアベースも同+5.8%と再び伸びが鈍化し、ピークアウトした模様。消費者物価の先行指標となる生産者物価は1月時点で同+13.7%と、6ヶ月連続で伸び率が低下した。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(投入価格、除く関税)

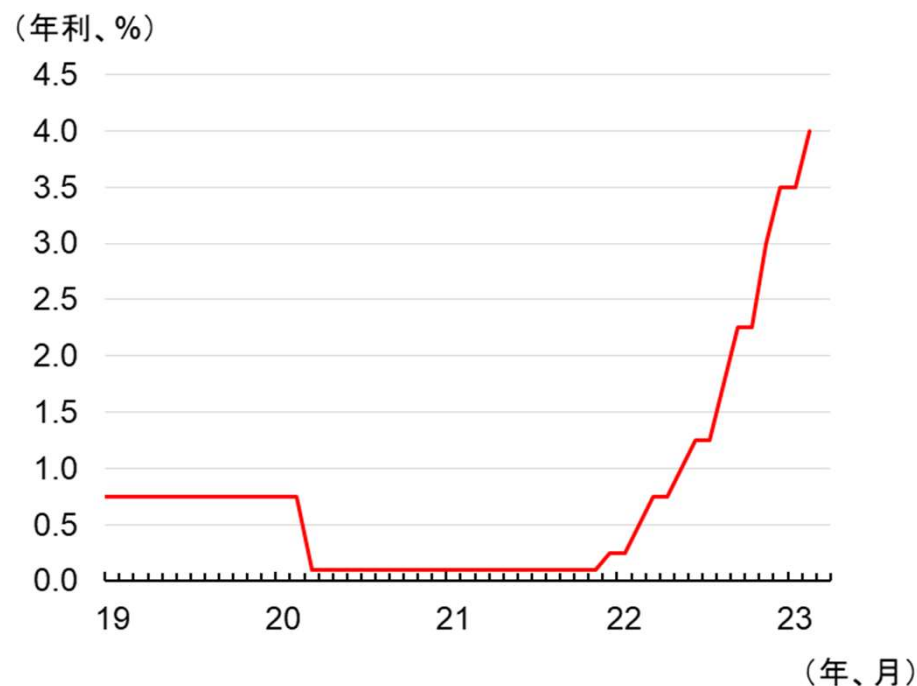


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは2月委員会で追加利上げ

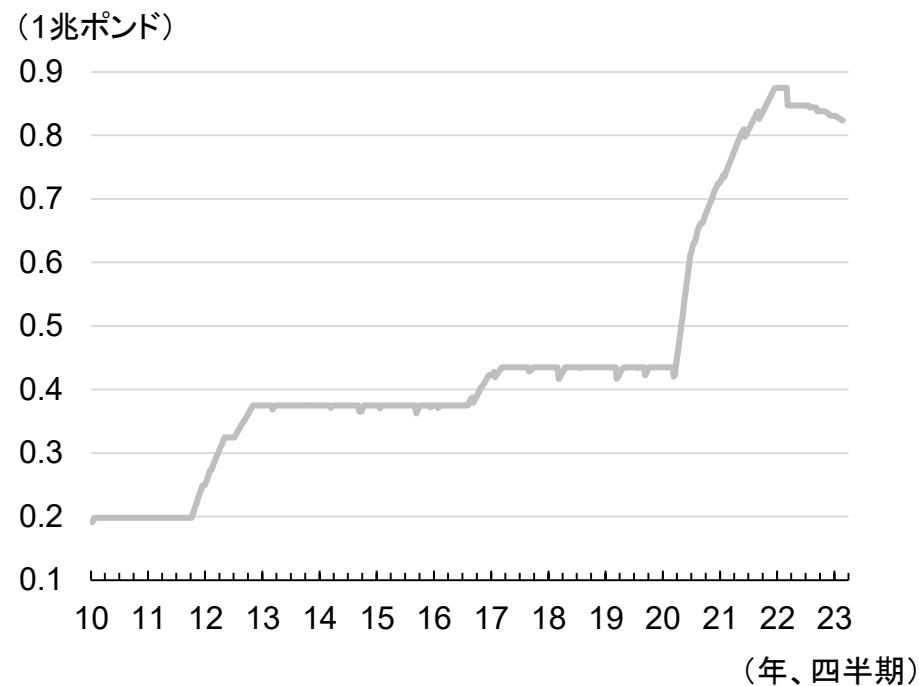
イングランド銀行(BOE)は2月2日に開催した金融政策委員会(MPC)で、政策金利(バンクレート)を0.5%引き上げ、年4.0%にした。またBOEは2022年11月から保有国債の市中売却を開始しており、国債の保有高は徐々に減少している。次回のMPCは2023年3月23日に開催される予定。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

英中銀の国債保有高

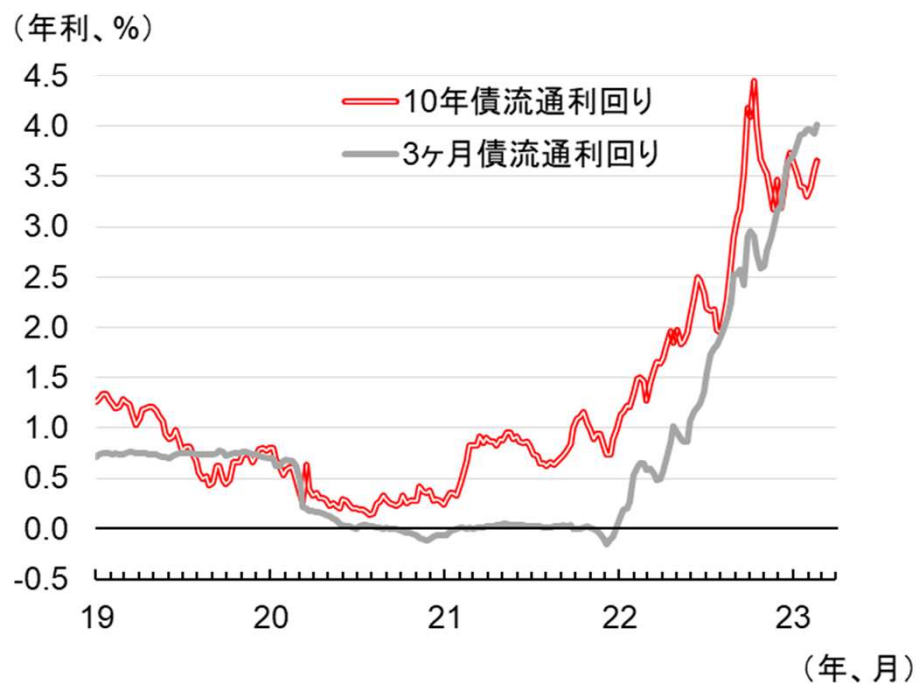


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は上昇、株価は上昇

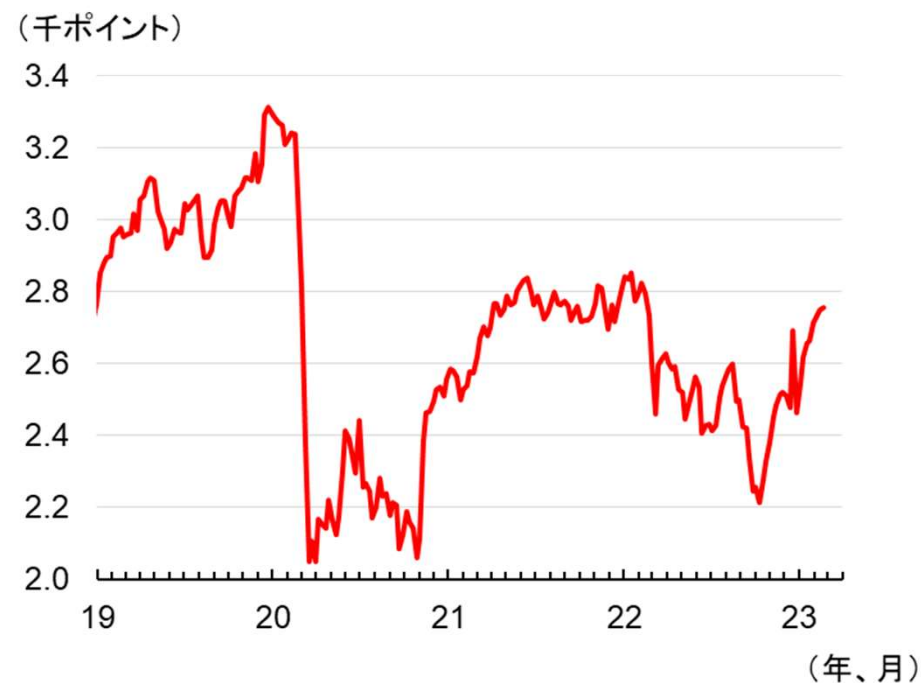
2月の英国の長期金利は上昇した。BOEが利上げを続ける方針であることに加えて、米国の利上げが長期化するとの思惑から、長期金利が上昇した。他方、2月の英国の株価は上昇した。世界景気の底打ちやインフレ鈍化への期待の高まり、相次ぐ企業の好決算が株価を押し上げた。

金利



(出所)BOE

株価(FT30指数)

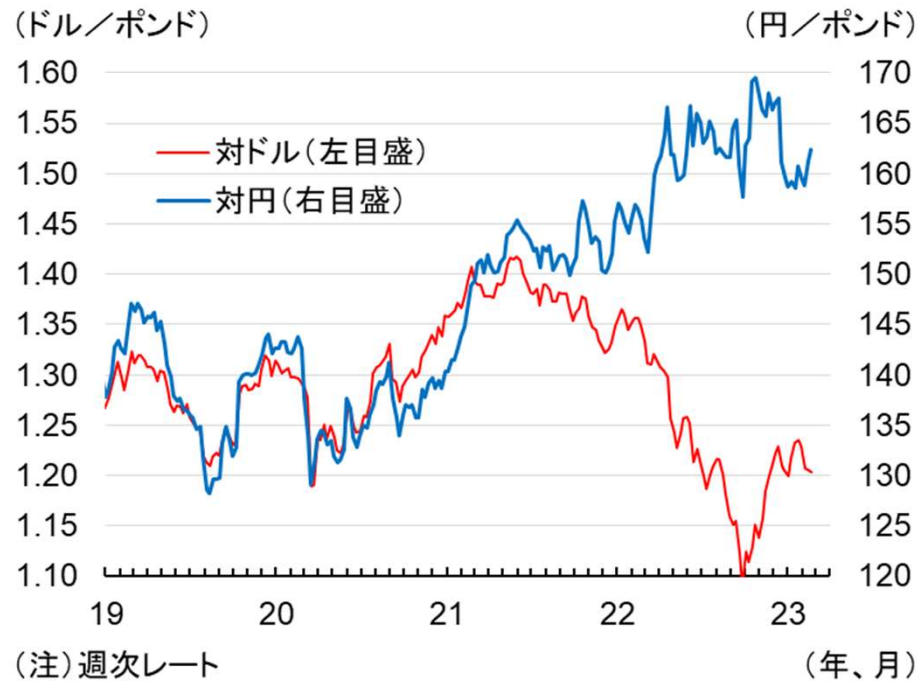


(出所)BOE

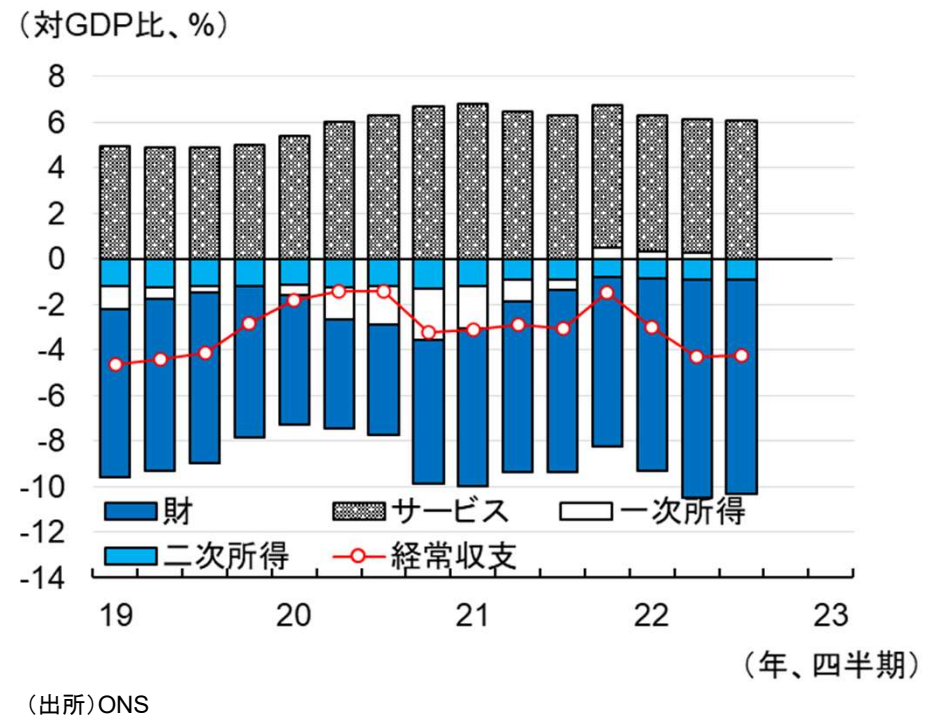
英国景気概況⑧ ポンドは対ドルで下落、対円で上昇

2月のポンド相場は対ドルで下落、対円で上昇。対ドルでは、米国の利上げが長期化するとの思惑から金利差が拡大し、ポンド安が進んだ。対円では、日銀による緩和が長期化するとの思惑からポンドが上昇した。国際収支を確認すると、経常収支の赤字幅の拡大は一服したが、実需面からのポンド買い圧力は弱いままである。

ポンド相場



国際収支



ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 土田陽介 TEL:03-6733-1628 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください